

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 734 号 令和 4 年 7 月

令和 4 年度山口県獣医師会定時総会開催報告

常務理事 酒 井 理

令和 4 年 6 月 12 日(日)、梅雨入り前の初夏の日差しの中、午前 10 時から山口市秋穂二島の山口県セミナーパークにおいて、3 年ぶりに来賓をお招きして、今年度の定時総会を開催しました。

はじめに、昨年度の定時総会以降に亡くなられた 3 名の先生方（防府支部の末富裕先生、山口支部の塩見正人先生、田中周郎先生）のご冥福をお祈りして、黙祷を捧げました。

会長挨拶

続いて、田中尚秋会長から、出席会員への謝意と平素からの本会事業推進への御支援・御協力に対する感謝、愛玩動物看護師法への対応、改正動物愛護管理法に基づく新たなマイクロチップ制度、本年 9 月に本会主催で開催する第 50 回中国地区獣医師大会・獣医学術中国地区学会などについて述べ、引き続き会員諸氏の協力をお願いしたい旨の挨拶がありました。

表 彰

次に、本会の発展等に寄与された 4 名の先生方への功労者表彰と、狂犬病予防対策に功労のあった 4 名の先生方への会長感謝状の授与が行われました。受賞者された方は次のとおりです。（敬称略）

○功労者表彰

松延佐知子(山口支部) 和田安弘(山口支部)
中越一郎(宇部厚狭支部) 吹屋貞子(県庁支部)

○狂犬病予防注射指定獣医師従事感謝状

西野 奨(岩柳支部) 河上 茂(岩柳支部)
三谷恭二(徳山支部) 大田悦三(長北支部)

受賞された先生方には、心から祝意と敬意を表し、今後ますますのご活躍を祈念します。

来賓挨拶

続いて、山口県知事代理の山口県農林水産部審議監 内藤雅浩様、山口県議会議長代理の山口県議会農

林水産委員長 西本健治郎様、衆議院議員 財務大臣政務官 高村正大様、山口大学共同獣医学部 度会学部長からそれぞれ祝辞を賜りました。

来賓の皆様にご退場いただいた後に、議事に移りました。以下概要を報告します。

出席者数

事務局が、現在の会員数 388 名に対し、出席者 248 名（当日出席 50 名、委任状提出者 198 名）となり、定款第 17 条の規定に基づく総正会員数の過半数を満たしており本総会が成立する旨を報告し、開会となった。

議 事

- 第 1 号議案 令和 3 年度事業報告の件（報告事項）
第 2 号議案 令和 3 年度決算の件（承認事項）
第 3 号議案 令和 4 年度事業計画書の件（報告事項）
第 4 号議案 令和 4 年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みに関する書類の件（報告事項）
第 5 号議案 令和 4 年度会費の額及び徴収方法の件（承認事項）

議長の選出並びに議事録署名人等の選任

議長に山口支部の中間實徳氏を選出し、議長は議事進行への協力を求め、定款第 18 条第 2 項に規定される議事録署名人を議長のほか出席理事から 2 名を選任し、被選任者は即時これを了承した。続いて書記 2 名を指名し、当該人らはこれを了承した。

議 長	中間實徳（山口支部）
議事録署名人	田中尚秋 会長理事
議事録署名人	中村 滋 理事
書 記	後藤孝一 理事
書記（議事録作成者）	酒井 理 常務理事

議案の審議経過

議長により次のとおり議案審議が進められた。

お知らせ

第 21 回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会参加費助成について

11 月 11 日～13 日の間に福岡市で開催される FAVA 大会に参加される本会会員への参加費助成について、申込み期限を 7 月 20 日(水)までとしていますので、積極的な参加をお願いします。詳細は、本会会報 6 月号をご覧ください。

第1号議案 令和3年度事業報告の件（報告事項）

議長は、事務局に報告及び説明を求めた。

事務局は、まず重点実施事項について説明し、総会資料を用いて、令和3年度事業の概要について説明した。主な説明は次のとおり。

- ・本年3月末時点での**会員数**は382名で、職域別では小動物分野が145名、産業動物分野が106名、獣医公衆衛生分野が64名
 - ・**褒賞**は、日本獣医師会会長表彰2名、中国地区獣医師会連合会会長表彰3名、山口県獣医師会会長表彰4名の会員を表彰した
 - ・本会主催の**会議**は、基本的に対面とオンラインの併用で開催した
 - ・本会主催の**学会・講習会**等は、基本的な新型コロナ対策を行って、すべての事業を実施した
 - ・**県学会**を8月29日に山口市の防長苑で開催し、発表演題29題、参加者77人と盛況な学会となった
 - ・**講習会・研修会**は、産業動物と獣医公衆衛生（市民公開講座）を各1回、小動物を2回開催した
 - ・**SFTS対策**では、山口大学共同獣医学部と県環境保健センターで、疑われる犬猫の検査を行い、陽性となった5例の臨床症状を本会HPに掲載した
 - ・**狂犬病予防注射実施頭数**は毎年減り続けてきたが、昨年度は、前年度を65頭上回る実績となった
 - ・**学校飼育動物保健衛生指導**は、48名の協力獣医師により、学校飼育動物の治療を46件、飼育指導を1回、講習会を1回実施した
 - ・**傷病鳥獣保護・救護**は、49名の協力獣医師が、73件の傷病鳥獣の保護・救護に取り組んだ
 - ・**災害時動物救護・支援**は、県生活衛生課の取組みに共催し、山陽小野田市で行われた、「ペットとの同行避難訓練」に宇部厚狭支部の会員が参加した
 - ・**補助犬使用者等支援**は、盲導犬使用者の団体「双葉の会」の取組みを支援した
 - ・**個体識別措置の普及**については、希望する動物病院に啓発用マイクロチップを配付した
 - ・**改正動物愛護管理法への対応**については、ホームページやメール等により、必要な情報を提供した
 - ・**愛玩動物看護師法への対応**については、関係会員のアンケート調査を実施するとともに、日本獣医師会等の最新の情報をその都度提供した
 - ・3年毎に作成している**会員名簿**を会員に配付した
 - ・**県獣医師会館の新規取得の検討**については、検討会を立ち上げ、第1回目の会議を開催した
- 以上の説明に対し、議長が質疑・意見等の有無を諮ったところ、皆無で、報告を終了した。

第2号議案 令和3年度決算の件（承認事項）

議長は、事務局に報告及び説明を求めた。

事務局は、貸借対照表を基に本会の財政状況を、正味財産増減計算書を基に増減幅が大きかった費目を中心にその理由等を説明した。主な説明は次のとおり。

- ・貸借対照表の**固定資産**のうち、獣医師会館取得引

当金が24,816,639円、会館取得資金が22,086,452円となっている

- ・正味財産増減計算書の**事業収益**では、傷病鳥獣保護委託事業の県の委託料が大幅に減額された
- ・**経常費用**では、昨年7月から職員1名体制とし、給与手当等の経費が大幅に減少した
- ・昨年度は県学会、講習会などすべての事業を実施したため、印刷製本費、諸謝金等の経費が、前年度に比べて増加した

以上の説明に続き議長は、監事に監査報告を求めた。

監査報告

監事を代表して白銀監事から、次のとおり監査報告があった。

- ・令和4年5月12日(木)、山口県獣医師会館において、令和3年度事業及び会計について監事3名で監査を行った結果、事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認められた
 - ・理事の職務の執行に関する不正の行為、法令等に違反する重大な事実は認められなかった
 - ・計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認められた
- 議長は、本議案に対し質疑・意見の有無を諮ったところ、特に質疑はなく挙手により賛成多数により決議された。

第3号議案 令和4年度事業計画書の件（報告事項）

議長は、事務局に報告及び説明を求めた。

事務局は、令和4年度事業計画書を基に、新年度事業について説明した。主な説明は次のとおり。

- ・本会の主催により9月3、4日に開催する中国地区獣医師大会・獣医学術中国地区学会について、多数の参画による盛会を期したいこと
- ・11月に福岡県において開催されるアジア獣医師連合大会への本会会員の参加を促すため、参加費助成制度を設けたこと
- ・分野別の講習会については、部会委員会で、開催時期やテーマなどを協議する予定であること
- ・山口獣医学雑誌第49号を発刊すること
- ・SFTS対策、狂犬病予防注射、学校飼育動物保健衛生指導、傷病鳥獣保護救護等、その他の事業については、例年どおり実施すること

以上の説明に対し議長が質疑・意見等の有無を諮ったところ岩柳支部の平田勇会員から、県獣医師会館の取得についての検討状況について質問があった。

事務局から、検討会で、会館の規模、取得方法、取得時期、取得に向けた資金調達について検討しており、今後検討を重ねて、取りまとめた意見を基に、総務委員会や理事会等に諮ることとしている旨を説明した。

議長がその他の質疑・意見等の有無を諮ったところ、皆無で、報告を終了した。

第4号議案 令和4年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みに関する書類の件（報告事項）

議長は、事務局に説明を求めた。

事務局は、令和4年度収支予算書を基に説明した。主な説明は次のとおり。

- 一般正味財産増減の部の経常収益では、「受取一般会費」を7,185,000円、「受取特別会費」を16,450,000円計上した
- 中国地区学会開催による事業収益として、「受取負担金」に、中国4県からの負担金、「受取協賛金」に、日本獣医師会からの協賛金、「受取助成金」に、山口観光コンベンション協会からの助成金、「受取参加費」に学会参加者の参加費を計上した
- 経常費用では、令和4年度も職員は1人とし、常務理事との2名体制事務を行うこととし、「給与手当」等を減額した
- 中国地区学会を山口市で開催すること等から、「旅費交通費」を減額した
- 中国地区学会開催に伴い、「印刷製本費」、「会議費」「講師謝金」等を増額した
- 資金調達及び設備投資に係る見込みについては、

資金調達、設備投資ともに予定はない

これに対し議長が質疑・意見等の有無を諮ったところ、皆無で、報告を終了した。

第5号議案 令和4年度会費の額及び徴収方法の件（承認事項）

議長は、事務局に説明を求めた。

事務局は、議案書に基づき、令和4年度の会費は、一般会費：年額2万円、入会費：1万円、特別会費：1頭当たり350円で、いずれも昨年と同額であり、納入方法も昨年度と変更はないことを説明した。

議長は、本議案に対し質疑、意見の有無を諮ったところ、特に質疑はなく挙手により賛成多数により決議された。

議長は、ほかに提案議案の有無を諮り、無いことを確認した後、議案審議が終了したことを告げた。

議長退任の挨拶

議長は、議事が円滑に終了したことへの謝辞を述べ、議長退任の挨拶を行った。

閉 会

白永伸行副会長理事から、議長への議事進行に対する謝辞、各議事についての慎重審議に対する会員各位への謝辞に続き、令和4年度定時総会の閉会が告げられた。



来賓の内藤雅浩
山口県農林水産部審議監



来賓の西本健治郎
山口県議会農林水産委員長



来賓の高村正大
衆議院議員 財務大臣政務官



来賓の渡会雅久
山口大学共同獣医学部長



議長の山口支部の中間實徳先生



質問される岩柳支部の平田勇先生



会場の様子



会場の様子

令和4年度第1回小動物部会委員会開催のご報告

小動物部会長 大黒屋 勉
(みさお動物病院)

2022年6月23日(木)に山口県獣医師会館において開催されました、令和4年度第1回小動物部会委員会についてご報告させていただきます。

当日は12名中10名の各支部小動物部会委員の先生方にご出席頂きました。

今回、委員長および副委員長の選任が行われ、委員長には私、大黒屋が、副委員長には白永伸行先生が選任されました。任期中、小動物講習会等の部会事業に尽力して参りたいと存じます。

また本部会委員会では、「(公社)山口県獣医師会令和4年度事業計画について」「愛玩動物看護師法への対応について」「改正動物管理法(マイクロチップの義務化)への対応について」「狂犬病予防注射の推進について」「令和4年度小動物講習会について」「山口大学共同獣医学部との連携について」と多くの重要な議題について意見が交わされました。

愛玩動物看護師法の施行に伴い、本年10月以降現任の動物看護師様は類似の名称を名乗ることが出来なくなる問題については全国的にも未だ定まった見解が示されていません。

マイクロチップの環境省データベースへの登録義務化に関連しては、獣医師会としてAIPOへの登録を推奨する意義について意見が出されました。

また狂犬病予防注射の推進に関しては、会員様よりご意見のあった「補助者」の明文化について意見が交わされました。現状、補助者については定義が曖昧であり仮に事故が発生した場合、責任の所在も不明瞭です。何事においてもコンプライアンスの重視が叫ばれる昨今、補助者を設けず支部の統廃合も含めて、指定獣医師で実施できる集合注射の形態を整えてゆく必要があるのではないかという意見が出されました。

山口大学との連携については学生教育の一環として改修された実験動物施設の一般開業獣医師への利用提供についてご説明頂きました。

これらのように、多くの課題が示されいづれも非常に重要な問題であることから、今後も継続して審議して行くこととなりました。

会員の皆様におかれましては今後とも小動物部会の活動にご意見を賜り、部会の運営にご協力頂きます様、宜しくお願い申し上げます。

小動物部会委員名簿

任期：令和4年6月1日～令和6年5月31日

氏名	所属	支部	氏名	所属	支部
◎大黒屋 勉	みさお動物病院	岩柳	片桐 秀信	片桐動物病院	宇部厚狭
弘津 和之	光動物病院	熊毛	市岡 貴典	レオ・アニマルクリニック	長北
○白永伸行	シラナガ動物病院	徳山	工藤 洋幸	くどう動物病院	豊浦
新田 直正	ファミリー動物病院	防府	高橋 学	たかはしペットクリニック	下関
原田 康隆	あさひ動物病院	山口	福田 達也	山口県生活衛生課	県庁
藤本 英三	ふじもと動物病院	美祢	谷 健二	山口大学共同獣医学部	山大

◎部会長 ○副部会長

会報編集委員全体会議開催報告

常務理事 酒 井 理

令和4年6月21日(火)、県獣医師会館2階会議室において、会報編集委員全体会議が開催されました。

今回の会議は、前編集委員の任期満了に伴い、各支部から推薦された新たな編集委員（任期：令和4年6月1日～令和6年5月31日）により、常任編集委員、委員長・副委員長の選任等について協議しました。

常任編集委員は、徳山支部の三谷藍先生、防府支部の豊川剛先生、山口支部の鹿島貴朗先生、美祢支部の鶴田祐哉先生、山口大学支部の上林聡之先生と私の6名が担当することとなりました。

また、豊川先生に委員長（編集責任者）を、鶴田先生に副委員長をお願いすることになりました。

フレッシュなメンバーで、会報編集作業に取り組みますので、どうぞよろしくお願いいたします。

毎月発行している会報には、本会主催の会議や講習会等の報告、日本獣医師会や山口県等からの情報、各支部からの投稿、会員からの紀行・見聞等を掲載していますが、よりよい会報となるよう、会員の皆様の積極的な投稿をお願いします。

会報編集委員原稿担当月

支部名	氏名	所属等	原稿担当月		
岩柳	古澤 剛	柳井農林水産事務所畜産部 (東部家畜保健衛生所)	—	R4. 12	R5. 11
熊毛	菅原 淳也	菅原獣医科病院	—	R5. 1	12
徳山	○三谷 藍	三谷獣医科病院	—	2	R6. 1
防府	◎豊川 剛	とよかわ動物病院	—	3	2
山口	○鹿島 貴朗	山口農林水産事務所畜産部 (中部家畜保健衛生所)	—	4	3
美祢	○鶴田 祐哉	農林総合技術センター 畜産技術部 育成業務課	—	5	4
宇部厚狭	羽迫 広人	ことのは動物病院	R4. 7	6	5

支部名	氏名	所属等	原稿担当月		
長北	笠井 亨浩	萩農林水産事務所畜産部 (北部家畜保健衛生所)	8	7	6
豊浦	石村麻莉乃	下関農林事務所畜産部 (西部家畜保健衛生所)	9	8	—
下関	原田 秀明	なつ動物病院	10	9	—
県庁	前田 翔一	山口県農林水産部畜産振興課 (衛生・飼料班)	随時	随時	—
山大	○上林 聡之	山口大学共同獣医学部	11	10	—
(事務局)	○酒井 理	(公社)山口県獣医師会	全月	全月	—

◎編集責任者 ○常任編集委員



常任編集委員と田中会長

リレー随筆

山口支部 阪田 昭次
(さかた 獣医科)

深川養鶏組合の末永組合長からバトンをいただきました。さかた獣医科の阪田昭次と申します。末永組合長には鳥インフルエンザ対応等大変お疲れ様です。これからも健康に留意され、山口県養鶏業の発展にご尽力いただきますようお願いいたします。

私が獣医師になったきっかけは父が酪農業をされており病気で死んでいく牛たちを見て親を助けたいという思いからです。今は下関で兄が繁殖農家として継いでおります。

昭和54年に大学卒業後すぐに県に入庁し、保健衛生、畜産振興携わってきました。その間に主に家畜保健衛生所で繁殖検診、畜産試験場で受精卵移植を担当していたことから、40年間県にお世話になった後、兼ねてからやりたかった開業を3年前にいたしました。開業といっても牛の繁殖専門で、繁殖障害の治療や受精卵移植コーディネーターと勝手に名乗って営業しております。また、農業共済組合で繁殖検診のお手伝いもしております。

さて、私が開業するきっかけは35年前畜産試験場で衛生担当として場内の一般診療をしていた時に繁殖牛の飼養試験の牛群で子牛が生後1週間下痢症を発症して死亡する症例が多発していました。そのため分娩房の消毒等を実施しましたが効果は見られませんでした。しかし、里山で放牧する試験の牛群もいましたが、その子牛たちは山の簡易別飼施設で飼われていましたが下痢症の発症は少なくすぐに治るのです。その違いは何なのか？舎飼と放牧、サイレージと生草。そこでまず食べているものが関係しているのでは？と病性鑑定室で血中ビタミン検査をしてもらうと案の定、通年サイレージ体系でビタミンA、ベーターカロテンが欠乏状態だったのです。(特に低品質のサイレージが影響)

そのため、次にこの通年サイレージ体系の牛群を2群に分けベーターカロテンの添加試験を当時の日本ロッシュから試供品の提供を受け実施しました。添加区ではビタミンA、ベーターカロテンの血中濃度は上昇し正常値になり、子牛の下痢症による死亡がなくなりました。そして、これまでこの牛群で起きていた、早期胚死滅、流産、虚弱児の発生もなくなったのです。ベーターカロテンはビタミンAの前駆物質だけでなく、カロテンとして繁殖や免疫にも関係

があると報告されています。

現在、酪農において生草を給与することはほとんどありませんし、近年では繁殖牛においても購入乾草が給与され生草を給与することが少なくなっています。私はこのことが現在言われている乳用牛、肉用牛の受胎率低下の一要因ではないかと思っています。

そこで、開業してから低下していると思われる農家に対してベーターカロテン製剤の添加をお願いしましたが、高価なのに効果はあまりはっきりと出てきません。そこで、広島県で開発されたビタミンA(総カロテン)簡易測定装置を購入し測定すると思ったほど上昇していなかったのです。

そこで、現在は飼料メーカーと共同して安価で高濃度のカロテン・ビタミン製剤を開発し、販売許可を受け昨年6月から販売をしております。発情、排卵、黄体の状態も良好になってきていますので、興味がある方はご連絡ください。(すいませんちょっと宣伝になってしまいました。)

以前、過剰排卵処理をした供卵牛のビタミンを測定した際、発情時にビタミンAが一時的に低下し採卵日には処理前のもとの値に戻っていたのです。発情時にビタミンAを何らかのかたち(発情兆候)で消費している。それを補うために黄体中のベーターカロテンも動員されているのではとする仮説を立てています。40年前先輩が「発情がわからない牛にはビタミン剤の添加を指導しなさい」と言っていた。そのときは科学的データによる立証されていなかったが、今後はその立証や乳牛、繁殖牛の受胎率向上、疾病予防対策に取り組んでいきたい。そして、これまで現職時代に経験したことで少しでも農家の一助になればと思いますので皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

最後に最近思うことは、「牛は本当に健康に飼われているのか?」「このままホルスタイン種でいいのか?」「日本には日本にあった畜産があるのでは?」「農家が儲けるために今何をすべきか?」です。

次は大学の後輩で、下関農林事務所で家畜防疫・畜産振興にがんばっておられる豊浦支部の柳澤郁成先生をお願いいたします。

近況のご報告

宇部厚狭支部 熊谷 堯之

(くまがいペットクリニック)

2021年1月に山口県宇部市にて新規開院したくまがいペットクリニック獣医師の熊谷堯之（くまがいたかゆき）と申します。繁忙期かつ数少ない休みの中で急いで作成したため、稚拙かつ慣れない寄稿で見苦しい箇所もあると思いますが、お付き合いいただければと思います。

一昨年までの約7年間、都内動物病院にて小動物臨床獣医師として研鑽を重ねてまいりました。勤務獣医師時代は、外科を得意とする院長の方針もあり、腹部外科はもちろんのこと、呼吸器外科・胸部外科・整形外科などあらゆる手術経験を積むことができました。また、母校である日本獣医生命科学大学では、内科学教室研究生として所属し、同教室教授である小山秀一先生の下で主に循環器疾患の勉強をしてきました。

新規開業から一年間余りが経過し、かかりつけ病院として一次診療を主にさせていただいております。近隣の諸先輩の開業獣医師様たちのご支援もあり、少しずつではございますが患者様も増加し順調な滑り出しが切れたのではないかと自身で感じております。都内での多人数の勤務獣医師で診療していた頃とは違い、自身のみで大勢の患者様を診ていかなければならない、全ては自分の責任であり、相談できる先輩がいないという状況ではありますが、患者様からの温かな声援を受けながらも七転八倒しながらも耐える日々を送っております。Uターン前、地元である山口県での診察に自信はなかったものの、家族であるペットを想う飼い主様達の希望やお考えに、都内の飼い主様との大きな相違はなく比較的すぐに

診療に馴染めたことは自分の中での自信へとつながりました。

東京で勤務医をしていた頃とは違い、事業主として病院経営に関しての悩み事も多く、慣れない経理やスタッフの管理など、試行錯誤しながらの日々を送っております。動物病院としては、まだまだ経験・知識不足かつ医療機器に不十分な部分もあり、近隣の動物病院様にお世話になってしまうこともしばしばです。今後としては専門性ももちつつ将来的には病院としてのスキルアップはもちろんのこと、周辺の動物病院様と連携をし、より多くの小動物臨床の発展を目指しております。

Uターンして以降、県内の獣医師様との付き合いがほぼなく、情報共有や指導を頂ける先輩が近くにおらず少し寂しい気持ちもあります。何かのきっかけにと、趣味を見出そうと最近ゴルフを始めました。普段、院内で陽の光に浴びることが少なかった自身にとって、ラウンドに出たときの爽快感は今までになく精神的なリフレッシュに繋がっております。いつも泣き目になりながら帰宅の途についておりますが、獣医師会の各関係者様とも親睦を深めたいと思っておりますので、ぜひいつでも誘って頂けたら幸いです。

今後、山口県獣医師会に関わる一獣医師として、小動物臨床はもちろんのこと、公衆衛生や家畜保健に関する社会的役割も担っていけるよう精進したく考えております。まだまだ若輩者の私ではございますが、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平均余命を如何に生きるか？

山口支部 中間 實徳

(山口大学名誉教授・東亜大学獣医看護学コース客員教授)

人はこの世に生を受けて、それぞれの環境の中で今日を生きています。現在の日本は平和で豊かな生活が出来ていることに感謝しなければならないと思っています。

しかし、人の寿命は色々な要因で早く死ぬ人もいれば、100歳を超えて生きてる人もいます。日本は国民皆保険制度で、医療は進んでおり殆どの人がその恩恵を受けています。

人の平均寿命は、0歳の子供が死亡する歳を示すもので、日本人の平均寿命が公表され、2021年で女性は87.74歳、男性が81.64歳といずれも過去最長となりました。前の年から女性が0.3歳、男性は0.22歳延びました。男女ともに東日本大震災の発生以降、9年連続で延びて過去最長を更新しています(厚生労働省)。

平均寿命が公表されている国や地域の中では、女性が香港に次いで2位、男性は香港とスイスに次いで3位となりましたが、今回から世界保健機関(WHO)に加盟する主要48か国の比較に切り替えたため、19年は男女ともに世界1位だった香港は「地域(特別行政区)」として除外されました(2022年)。この結果、日本は女性が世界1位、男性は2位となりました。去年は新型コロナウイルスで亡くなる人が増えた一方、がんや心疾患、脳血管疾患などの死亡率が低下したことから、全体として平均寿命が延びたということです。

厚生労働省は「去年は感染対策が徹底されてインフルエンザなどで亡くなる人が減少したこともあり、比較的大きな延びになった。今後も医療水準の向上などを背景に寿命は延びていくのではないかと」しています。

日本人の死因についてみると、がん、心疾患、脳血管疾患の「3大死因」で亡くなる確率は男性が約50%、女性が約44%。20年は初めて新型コロナウイルス感染症で亡くなる確率についても検討され、男性は0.28%、女性0.20%だったと報告されています。

健康寿命とは、WHOの定義によると「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」とのことです。厚生労働省「健康寿命の令和元年値」によると、令和元年における日本人の健康寿命は、男性が72.68歳、女性が75.38歳となっています。

平均寿命と健康寿命の差は、日常生活の制限を受

ける不健康な期間を意味します。たとえ平均寿命が長くても、健康寿命との差が大きい場合には不健康な状態が長期にわたることとなり、医療費や介護費が増えるなど生活の負担も大きくなってしまいます。

平均余命とは、各年齢の人が現時点から残り何年生きられるかを数値にしたものです。平均余命は、今後の人生をどう生きるか考えるのに必要になります(図参照)。

厚生労働省は2022年6月1日時点の住民基本台帳をもとに、国内に住む**100歳以上の高齢者**の人数をまとめました。それによりますと6月15日までに100歳以上になる人は、全国で合わせて8万6510人で、去年から6060人増えました。昭和45年の310人から、51年連続で最多を更新しています。また、人口10万人当たりで見た100歳以上の高齢者の人数は島根県が134.75人と9年連続で最も多く、次いで高知県が126.29人、鹿児島県が118.74人でした。

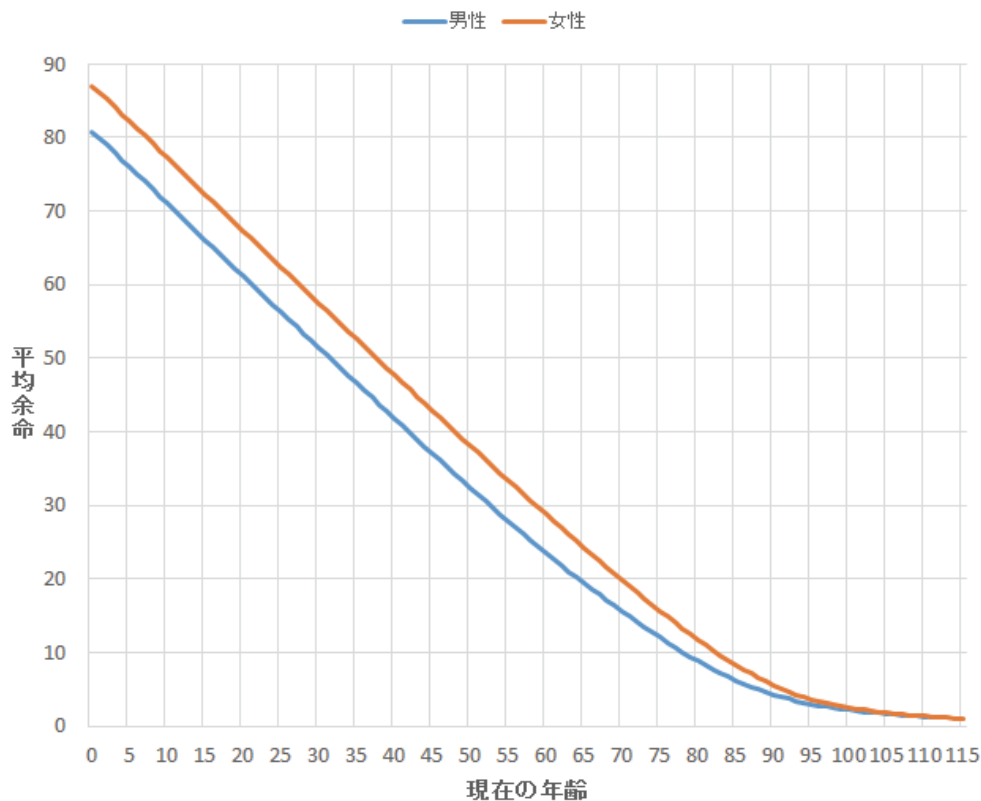
読者は「平均余命表」を見て、自分の寿命が何年あるかを推定できますので、残る人生をどのように生きるかを考えてみるのも良いかも知れません。「ピンピンコロリ」という生き方は最後に周りの人や家族に迷惑を掛けないという意味では、良いことでしょう。最近では治癒の見込みのない患者は延命装置をつけなくて欲しいという人も少なくありません。こういう事は、元気なうちに文書で書いておくことが良いでしょう。

私はこれまで幸いなことに、26歳の年の年末に虫垂炎の手術をして1週間で抜糸して退院した事があるだけで、入院はそれ以外ありません。今年86歳を過ぎましたが、これまでの大学教員生活50年間は1日も休んだことはありません。健康の有難さを実感しています。

現在、未だ東亜大学で教鞭を取っている関係で、専門書の処分はしていませんが、山口大学図書館と東亜大学獣医看護学コースの図書室に寄付するように、リストアップをしているところです。

最後に、私は座右の銘として、「**誠心誠意**」をモットーにやってきました。学生にも初めの頃は色々失敗もあるが、誠実に後処理を行えばきっとそれは許して貰えるから、上司や同僚にきっちり話をして理解を得るように努めなさいと言っております。悔いの残らない人生を全うしたいと願っているところです。

完全生命表に基づく平均余命



(厚生労働省：2022年6月)

例えば、あなたが50歳であれば、横軸の「50」のところから、上へたどります。男性なら青い線、女性なら赤い線と交わったところが、あなたの平均余命です。だいたい、男性なら30年ちょっと、女性なら40年にちょっと欠けるぐらいの余命があることが分かります。

お知らせ

令和4年7月の主な行事

- 7月7日 ・中国地区獣医師会連合会臨時総会 (山口グランドホテル)
- 7月7日 ・家畜保健衛生所業績発表会 (中部家畜保健衛生所)
- 7月15日 ・日本獣医師会事務担当者会議 (東京都)

事務局だより

- | | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 6月1日 ・日本獣医師会第1回理事会 (東京都) | 6月27日 ・畜産振興協会定時総会 (J Aビル) |
| 6月9日 ・県獣医師会館補修工事 | 6月27日 ・山口県庁、山口市、山口県医師会訪問協議 |
| 6月12日 ・本会定時総会 (山口県セミナーパーク) | 6月28日 ・産業動物部会・獣医公衆衛生部会合同会議 (県獣会館) |
| 6月21日 ・会報編集委員全体会議 (県獣会館) | |
| 6月22日 ・日本獣医師会第2回理事会 (東京都) | |
| 6月22日 ・日本獣医師会定時総会 (東京都) | 6月7日 ・事業推進会議 |
| 6月23日 ・第1回小動物部会委員会 (県獣会館) | |

次回編集委員会 7月26日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第734号 令和4年7月10日 (毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷

動物由来感染症から ペットを守り、自分を守る

講師

国立感染症研究所獣医科学部長

まえだけん

前田 健 先生

[学歴]

- ・平成6年3月 東京大学農学部獣医学科卒業
- ・平成8年3月 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了
- ・平成8年3月 博士(獣医学)

[職歴]

- ・平成6年4月~ 日本学術振興会特別研究員 (DC1)
- ・平成8年4月~ 日本学術振興会特別研究員 (PD)
- ・平成8年9月~ 山口大学農学部准教授 (助教授)
- ・平成13年4月~ マサチューセッツ州立大学医学部客員研究員
- ・平成21年4月~ 山口大学農学部 (現、共同獣医学部) 教授
- ・平成31年4月~ 国立感染症研究所獣医科学部長 現在に至る



会場

山口グランドホテル 2階 孔雀の間 (山口市小郡黄金町)

定員

70名程度

※お申込みが定員を超える場合は抽選とさせていただきます。
結果は郵送でお知らせします。

申込方法

「メール」または「郵便ハガキ」に次の事項を記入して、お申込みください。

①氏名 ②住所 ③郵便番号 ④電話番号 (日中連絡がつながる番号)

応募締切

令和4年**8月15日(月)**まで (ハガキの場合は必着)

参加無料

※参加される方は、新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします。

申込み・問い合わせ先

公益社団法人山口獣医師会

〒754-0002 山口市小郡下郷1080-3

083-972-1174 (平日9~17時)

ホームページ : <http://www.yamaguchi-vet.or.jp/>

メールアドレス : yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

